

愛西市教育委員会では、愛西市立小中学校の適正な規模の検討並びに老朽化対策を進めています。  
 今回 (Vol.3) は、「①これからの学校施設の在り方、②学校施設の現状」について、お知らせいたします。

### ① これからの学校施設の在り方について

【国の考え方】

文部科学省は、学校施設の在り方を次のように考えています。



#### 学び 個別最適な学びと

協働的な学びの一体的な充実

例) 個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース

#### 生活 新しい生活用様式を踏まえ、

健やかな学習・生活空間を実現

例) 快適な教育環境を整えるための空調設備の整備

#### 共創 地域や社会と連携・協働し、

ともに創造する空間を実現

例) 地域の実情に応じた他の公共施設等との複合化・共用化

#### 安全 子供たちの生命を守り抜く、

安全・安心な教育環境を実現

例) 老朽化対策による安全性の確保

#### 環境 脱炭素社会の実現に貢献する、

持続可能な教育環境の実現

例) 学校における木材利用の促進

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」(令和4年3月30日、文部科学省)より要約

#### 【愛西市教育委員会の考え方】

社会の変化に伴い、学校教育を進める上で求められる教育活動や施設機能も変わり、今の学びに対応した学校施設の実現が求められています。また、学校施設の安心安全も重要な課題です。

愛西市教育委員会は、国の考える学校施設の在り方に沿った学校施設を目指すと同時に、老朽化対策に取り組む必要があると考えています。



**愛西市教育委員会は、学校が充実した教育活動を実施するとともに豊かな人間**

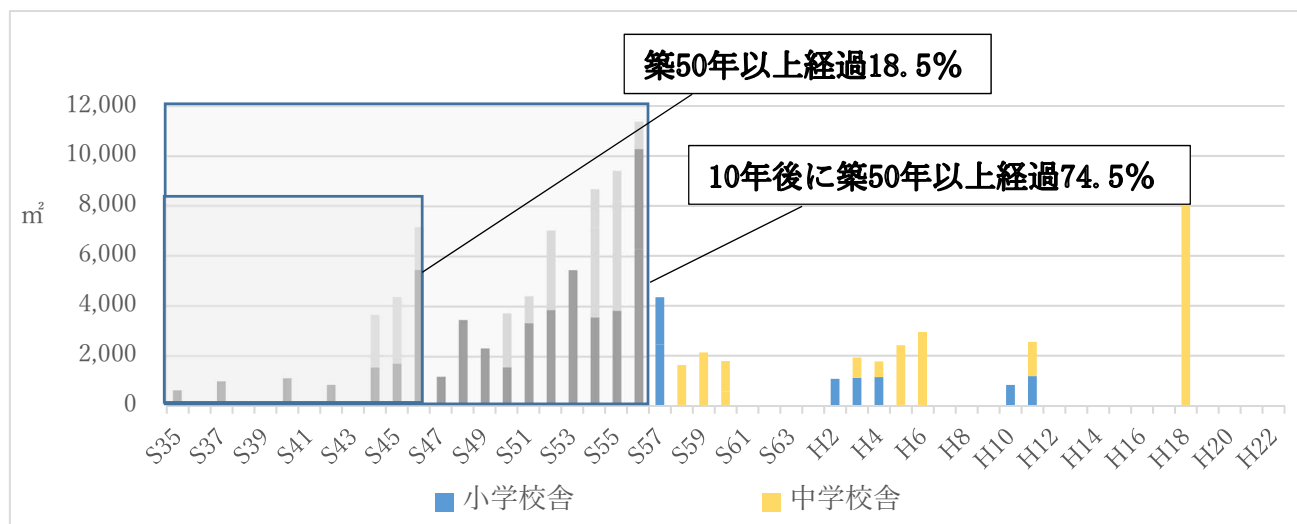
**性を育む施設になることを目指します。**

## ② 学校施設の現状について

愛西市の学校施設のほとんどは鉄筋コンクリート造で、目標耐用年数は、普通品質で50年から80年とされています。(昭和63年、社団法人日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」より要約) 現在、愛西市の学校施設で築50年以上経過した建物は、全体の18.5%、さらに10年後には74.5%を占めることになります。

全ての学校で老朽化対策は必要ですが、同時実施は難しい現状です。予防保全対策で長寿命化を図ることができる学校も考えられるため、必要な調査を実施し、その調査結果をもとに改修方法を検討する必要があると考えています。

### 愛西市立小中学校の建築年別の整備状況



## 学校規模の適正化による学校再編の検討課題について

愛西市教育委員会が考える検討課題の一部を抜粋してお知らせいたします。

### 【再編後のスクールバスの運行について】

再編によって通学距離が長くなる地域の方から、子どもの安全を心配する声を多くいただいております。国の基準では、小学生では4 km、中学生では6 kmが通学圏内とされていますが、愛西市では国の基準よりも柔軟に考え、無償でのスクールバスの検討をしております。

### 【再編後の通学路について】

市長部局の協力のもと、安全な通学路を確保するための検討を行います。

### 【再編前の地域交流について】

再編後、同じ学校に通う児童生徒の関係づくりや新たな学校環境へ慣れてもらうことを目的とし、事前に、再編予定校同士での合同授業など、児童生徒交流の機会を設けていくことを考えております。

今後も愛西市立小中学校の適正な規模の検討並びに老朽化対策に関する情報については、ホームページ等で公開していく予定です。

ご意見やご質問等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。